

SCREEN NOW

Fit your needs, Fit your future
期待に応えて、未来を形に・・・

2015年3月期第1四半期決算報告

株主通信
AUTUMN 2014
92



株主の皆さまへ



平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2015年3月期第1四半期連結累計期間(2014年4月1日～6月30日)における事業環境は、半導体業界においては、微細化投資が続く中、ロジック向けの投資は増加しましたが、ファウンドリーの投資は前四半期に集中した反動から減少しました。FPD業界においては、テレビ用液晶パネルの中国への生産シフトが進みました。印刷関連機器においては、欧州経済の低迷や競合の激化などにより、厳しい事業環境が続きました。

このような状況の中、当社グループの当四半期の売上高は524億円と前年同期に比べ68億円(11.5%)減少しました。一方、利益面では、売上減少に加え、前期に実施した緊急対応策の解除や為替の円安影響などにより人件費や研究費などの経費が増加したものの、かねて取り組んできました変動費率の改善や、たな卸資産評価損の減少などにより、営業利益は22億円(前年同期比1.3%増)、経常利益は23億円(前年同期比5.5%増)となりました。また、四半期純利益は15億円(前年同期比9.1%減)となりました。

2015年3月期の連結業績予想に関しましては、半導体機器事業の足元の受注状況から、第2四半期連結累計期間の売上と利益が前回予想を上回る見込みとなったため、2014年5月7日に公表の数値を上方修正いたしました。配当につきましては、1株当たり5円の期末配当予想に変更はございません。

当社グループは、2014年10月の持株会社体制移行に向けた準備を進めており、今後も各事業の独立採算制の強化と収益力向上に取り組むとともに、新規領域の事業化を加速するなど、さらなる成長に向けてチャレンジし続けてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

取締役社長 最高執行責任者(COO)
垣内 永次

「株式会社SCREENホールディングス」として、 新たなスタートを切ります。

第73回定時株主総会にてご承認いただきましたとおり、大日本スクリーンは2014年10月1日より「株式会社SCREENホールディングス」として新たなスタートを切ります。

新体制のもと、事業を承継した5社は明確な責任と権限を与えられ、事業の拡大と収益力の強化に努める一方、持株会社はグループ全体のガバナンスの維持と戦略の策定、新規事業の創出と育成を担うとともに、成長シナリオの実現に取り組めます。

■ 新体制図：5つの承継会社と事業内容

株式会社SCREENホールディングス

- 株式会社SCREENセミコンダクターソリューションズ
・半導体機器事業
- 株式会社SCREENファインテックソリューションズ
・FPD機器事業およびその他装置関連事業
- 株式会社SCREENグラフィックアンドプレジジョンソリューションズ
・印刷関連機器およびプリント基板関連機器事業
- 株式会社SCREENマニファクチャリングサポートソリューションズ
・製造支援および製造請負業務
- 株式会社SCREENビジネスサポートソリューションズ
・シェアードサービス業務(総務、経理、人事、情報システムなどに関連する業務)

持株会社体制に関するQ&A

Q 持株会社体制移行の狙いは何ですか？

各事業の専門化、高度化が進む中で、各子会社に対し明確な責任と権限を与えることで、持株会社の統制のもと、市場の変化に応じてスピーディで大胆な経営判断を行えるようにするのが狙いです。また、独立採算制により収益性を高めるとともに、バランスシートの強化の狙いもあります。

Q 保有株式に特別な手続きは必要ですか？

今回の持株会社体制移行に関連して、株主の皆さまに行っていたたく手続きは一切ございません。

Q 分社化することで、総務、経理などの組織が各社にでき、無駄が生まれませんか？

そのような無駄を防ぐためにも、既存のシェアードサービス(総務、経理、人事、情報システムなど)の間接業務を一括処理する会社として、株式会社SCREENビジネスサポートソリューションズがあります。この体制下、グループ全体の効率化を図ります。

Q 東京証券取引所に上場する銘柄名や証券コードは変更になりますか？

持株会社である「株式会社SCREENホールディングス」に社名変更し、引き続き上場を維持します。なお、現在東京証券取引所に最終確認中ですが、2014年10月1日以降は以下のような見込みです。

- ・銘柄名： 株式会社SCREENホールディングス
- ・上場証券取引所： 東証一部(変更なし)
- ・証券コード： 7735(変更なし)
- ・セクター： 電気機器(変更なし)

半導体機器事業

Semiconductor Equipment Segment

売上高 351億円(前年同期比 19.0%減)

営業利益 29億円(前年同期比 37.7%増)

ロジック向けの投資は増加しましたが、ファウンドリーの投資が減少したことにより洗浄装置を中心に売上が減少しました。利益面では、売上の減少に加え、前期に実施した緊急対応策解除などにより人件費や研究費などが増加したものの、変動費率の改善や、たな卸資産評価損の減少などにより営業利益は増加しました。

今後の見通しと取り組み

第1四半期の受注が期初想定を上回ったことなどにより、第2四半期連結累計期間の業績予想を上方修正しています。今後も微細化投資が続く中、第2四半期以降はメモリー(NAND型フラッシュ)が、下半期以降はファウンドリーの投資が需要をけん引する見通しです。

FPD機器事業

FPD Equipment Segment

売上高 49億円(前年同期比 20.7%増)

営業損失 △4億円(前年同期は1億円の営業利益)

国内向けの売上は減少したものの、中国向けの大型パネル用製造装置の売上が増加しました。しかしながら、利益面につきましては、製品構成の変化や固定費の増加などにより、営業損失となりました。

今後の見通しと取り組み

受注は前四半期に引き続き好調を維持していますが、売上に寄与するのは第4四半期以降になる見込みです。足下では、中国向け大型パネル用製造装置が売上・受注の大半を占めており、今後は4Kテレビの普及による大型化にも期待しています。一方、黒字化に向けて売上の確保およびコスト削減を進めています。

メディアアンドプレジジョンテクノロジー事業

Media and Precision Technology Segment

売上高 121億円(前年同期比 4.6%増)

営業利益 4億円(前年同期比 4.5%増)

印刷関連機器は、主に為替の円安影響により、CTP装置とPOD装置の売上が増加しました。プリント基板関連機器は、直接描画装置の売上が増加したことにより、売上が増加しました。また、売上の増加により営業利益も増加しました。

今後の見通しと取り組み

印刷関連機器では、CTPの国内市場での入れ替え需要を着実に取り込めるよう努めます。欧州は厳しい状況が継続していますが、インクジェットPOD装置を中心に商談は増えつつあります。プリント基板関連機器では、直接描画装置のエントリーモデルや透明電極検査装置の投入により販売拡大を図ります。



用語解説

ロジック: 半導体の一種で、演算や命令などを行う。

ファウンドリー: 半導体の受託生産を行う企業。

メモリー: 半導体の一種で、データを記憶する。そのうち、フラッシュメモリーは、電源を切ってもデータが消えない書き換え可能なメモリーを指す。NAND型フラッシュメモリーは回路規模が小さいうえ、大容量のデータ保存に適し、スマートフォンなどの携帯機器に使用される。

変動費: 生産量や販売数量の増減に応じて変動する費用のこと。原材料費や荷運賃費、外注費など。

固定費: 生産量や販売数量の増減に関係なく、一定期間に一定額発生する費用のこと。人件費、減価償却費、研究開発費など。

CTP: Computer to Plateの略。印刷するデータをコンピューターから印刷用プレートに出力し、印刷版を作成する方法。

POD: Print on Demandの略。必要なときに必要な部数を印刷すること。

(注) 財務数値につきましては、金額は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表記しております。

▶ 2015年3月期連結経営成績

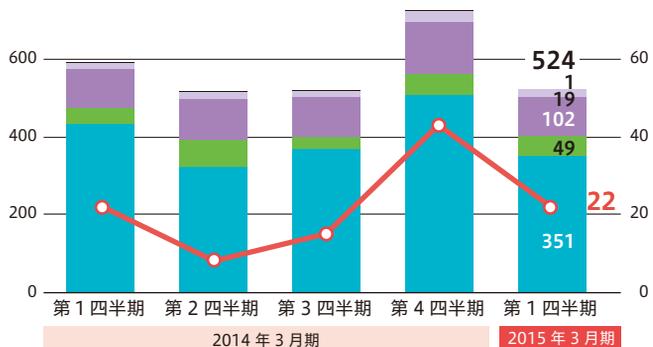
(億円)

	第1四半期 2014年4月1日から 2014年6月30日まで	前年同期 2013年4月1日から 2013年6月30日まで
売上高	524	593
営業利益	22	22
経常利益	23	22
四半期純利益	15	16

▶ 売上高・営業利益

■半導体機器事業 ■FPD機器事業 ■メディアアンドプレジジョンテクノロジー事業
 (■印刷関連機器 ■プリント基板関連機器) ■その他 ○営業利益[右目盛]

(億円) 800 (億円) 80



▶ 2015年3月期連結業績予想

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期(四半期)純利益
第2四半期連結累計期間	1,130	47	45	30
通期	2,410	112	105	83

2015年3月期の期末配当につきましては、1株当たり5円を予定しております。

(注) 財務数値につきましては、金額は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表記しております。

TOPIC 錠剤に文字などを印刷 — 製薬業界向けインクジェット式* 錠剤印刷機「DP-i3000」を開発

医薬分野での調剤ミスや誤飲防止などを目的に、錠剤本体への製品情報表示や識別性を向上させる、製薬業界の取り組みに対応したインクジェット式錠剤印刷機「DP-i3000」を開発しました。この装置は、当社独自の直接描画技術、検査技術、画像処理技術を活用し、調剤時に割られた錠剤でも名称や成分含有量が確認しやすいよう錠剤割線を基準とした高品質な両面印字を可能にしました。現在、複数色の可食顔料インキの開発も同時に進めており、早期の製品化を図り、同分野の発展にも貢献していきます。



錠剤印字サンプル



DP-i3000

*インクジェット式印刷機：インクの微細な粒子を吹き付けて印刷するデジタル印刷機。

▶ 株価および出来高の推移



大日本スクリーン製造株式会社

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上 4丁目天神北町1-1 電話075(414)7131
 www.screen.co.jp 証券コード7735

SCREEN NOW Vol.92 発行日：2014年9月22日(発行は3月、6月、9月、12月) 発行：広報・IR室
 「SCREEN NOW」(株主通信)は、当社製のフォント「ヒラギノ書体」を使用しております。



UD FONT by HIRAGINO 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。